

会津美里町松岸集落における鳥獣被害防止対策の取組

会津農林事務所 会津坂下農業普及所

1 背景・ねらい

(1) 背景（松岸集落の概要）

- ・耕地面積：82ha
- ・世帯数：61戸（うち農家36戸）
- ・栽培品目：水稲、果樹等
- ・鳥獣被害：イノシシ、クマ、カラスなどによる農作物被害
- ・鳥獣対策：個人による電気柵等の対策にとどまる



図1 会津美里町松岸集落

(2) ねらい

効果的な鳥獣被害対策の検証と、「集落ぐるみ」での対策実施体制を構築し、被害を減少させ、地域農業の維持を図る。

2 活動内容

(1) 現状把握と対策の検討

- 住民同士の打合せの場の設定
 - ・住民説明会で**モデル地区設置を提案**
- 集落環境診断
 - ・集落住民、専門家、町、普及所で**集落環境及び鳥獣被害状況を確認**
- アンケート調査
 - ・鳥獣被害の状況や被害対策への**住民意識等を調査**
- 被害対策検討
 - ・現状分析し、住民と関係機関で対策を検討



図2 集落環境診断の様子

(2) 対策の実施

- 恒久電気柵の設置、管理
 - ・専門家の助言のもと、被害の多い集落西側の山際に**恒久電気柵を設置**
 - ・センサーカメラによる**出没状況等の調査**
 - ・集落役員による定期的な点検・管理作業等の実施支援
- カラス対策「くぐれんテグスちゃん」の実証
 - ・果樹被害の多いカラスへの対策について、研究機関（農研機構）の助言のもと、**「くぐれんテグスちゃん」実証ほを設置**
 - ・被害状況や設置コスト、労力等の調査



図3 恒久電気柵設置

モモ食べ放題で毎日来ちゃうな～



図4 果樹園に誘引されたクマ

(3) 対策の評価

- 対策の効果検証と改善点の明確化
 - ・住民を対象とした検討会を年に2回開催
 - ・専門家、町、住民とともに途中経過の確認と年間の**振り返りを実施**

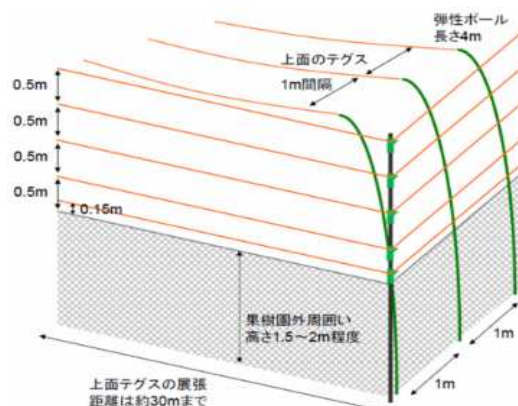


図5 「くぐれんテグスちゃん」構造図（農研機構HPより引用）

3 活動成果

(1) 住民の対策意識の共有化と合意形成

- 集落環境診断
⇒被害状況の把握（見える化）と被害の発生要因の共有化が図られた。
- アンケート調査
⇒住民のニーズや意向を具体的に把握できたことで、効果的な対策を立案・実施する際の基礎データとなった。
- 対策立案
⇒環境診断やアンケート調査をもとに、集落役員、専門家、町、普及所で協議し、恒久電気柵等による鳥獣被害対策について合意形成できた。



図6 電気柵設置前の出没・被害状況と電気柵設置ルート
※白線が集落、黄色線が電気柵、丸が出没・被害発生地点

(2) 対策効果の実感と課題の把握

- 恒久電気柵の設置
⇒普及所の伴走支援により、電気柵の有効性を確認できた。
⇒少人数（集落役員）に点検管理の労力負担が集中していたが、次年度以降は役員一丸で点検管理を実施することとなった。
- カラス対策「くぐれんテグスちゃん」の実証
⇒前年度は全滅に近いほどの被害であったが、設置後は被害果が激減し、カラス対策として高い有効性を確認できた。
⇒住民の導入コスト等への懸念を確認できた。



図7 電気柵の点検管理 図8 イノシシの侵入

(3) 対策の改善と意識向上

- ⇒点検管理や検討会等を通して、課題を確認し、次年度以降に取り組むべきことを整理できた。
- ⇒1年目は参加意向のある住民が少なかったが、2年目には多くなり、非農家を中心に住民の鳥獣被害対策に対する意識が向上した。



図9 実績検討会

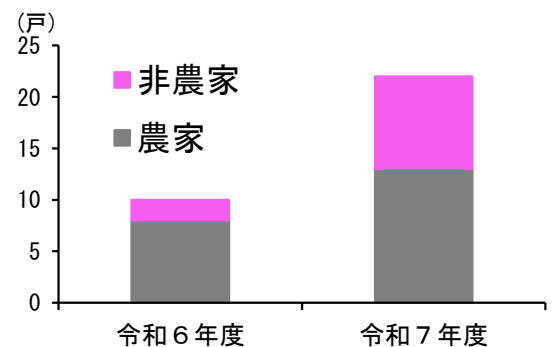


図10 電気柵管理への参加意向戸数

「集落ぐるみ」で持続的に対策を実施するきっかけづくりができた！

4 今後の活動・方向性

(1) 「集落ぐるみ」での持続的な対策の実現

集落役員を核とした「集落ぐるみ」での対策が持続的に行われる体制を整備するため、継続的な支援を実施する。

(2) カラス対策「くぐれんテグスちゃん」の改良

効果的なカラス対策を波及させるため、導入コスト削減と設置労力軽減を検討し、「くぐれんテグスちゃん松岸モデル」を確立する。